

平成 28 年度

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500021		
法人名	株式会社 金ヶ崎福祉フロンティア		
事業所名	介護予防施設 西光荘		
所在地	岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根和光544番地2		
自己評価作成日	平成 年 月 日	評価結果市町村受理日	平成29年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0392500021-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 28 年 11 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

酪農が盛んな地域に立地しており、窓から見える景色はとても開放的。入浴は、温泉を利用しているため湯治をしに来た気分を味わえます。併設に駒子の湯と和光ドームがあり定期田園バスが運行されている事も、面会やボランティアの交流もあります。利用者様のペースに合わせたゆったりとした環境で日々の生活を送れます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西光荘は開設10年の節目を迎えた。広大な酪農地帯に町民憩いの温泉施設「駒子の湯」と和光ドームが隣接し、GHと併設の小規模多機能居宅介護事業所を同一会社が運営している。幼、小、中学生、ボランティア、隣接施設利用者の訪問、小規模多機能利用者との日常的な交流を図りながら草地周辺の散策や心身温まる湯治気分での温泉入浴も楽しめるよう誠心誠意支援している。GHに対する家族の信頼は厚く運営推進委員会では活発な意見・提言、話し合いがなされている。居室担当制をとり「安心・笑い・意思の尊重」をキーワードにした介護理念に沿った支援で、広報誌を通じて利用者の笑顔を地域に届けながら「西光荘」が介護の拠りどころになれるよう努めている。終末期の不安に備え医療や関係機関との話し合いを更に重ねたいとしており、今後益々期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申送り後に理念を唱和し実践出来るように作成した介護理念も唱和している。又、介護理念をもとに実践しやすい目標を月ごとに決め取り組んでいる。	安心・笑い・意思の尊重をキーワードにした介護理念を毎朝唱和し確認し合い支援に繋げている。物事を「明るく前向きにとらえる」取り組みを心がけ定例会で事例を交換しながら穏やかで笑いのある暮らしの実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の職場体験の受け入れを行なっている。園児の来訪やボランティアスクールで小学生と交流した。高校生から制作したベンチとテーブルの寄贈もあった。地区の敬老会にも参加した。	幼稚園児、小中学生、ボランティアの訪問が多く、元気、笑い、社会の新鮮な風を戴いている。地域の敬老会への参加や「貯筋講座(介護予防教室)」に職員が協力したり講座参加者がGHを訪てくれることもある。広報誌「きらめき」を地域に配布し利用者の笑顔を届けながらGHへの更なる理解と協力を繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	温泉を利用した『貯筋講座』と『湯ったりサロン』という介護予防事業に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催。会議のメンバーには行事に参加してもらい、利用者・職員・施設の様子をみてもらっている。頂いた意見は即実行するように心がけている。	併設の小規模多機能事業所と合同開催としている。円卓で、行事との組み合わせなど開催方法を工夫しながら運営状況を報告し、避難訓練への参加、職員処遇などに活発な意見提言がなされ、例えば、外出・送迎用リフト車両の購入に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の連絡会議等に参加し日頃から連絡を取り、連携が図れるようにしている。また運営推進会議に町職員が出席しているので、相談しやすい。	運営推進会議に町職員が参加し、町主催連絡会議には荘の職員が毎月出席し、保健センター、包括担当者とも情報交換し話易い関係にある。毎月、介護相談員が事業所を訪問し利用者や面談している。保健・福祉・診療所を含めた関係機関とは常に連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	食事の時間が近くなって、食堂から離れようとする利用者がいた場合、“もうすぐご飯ですよ”等言い“行ってはダメ”等と言わないようにしている。身体拘束は必要な場合に限り、家族にも説明し同意を得てから行うようにしている。	身体拘束の禁止行為について、職員は研修で学び弊害を理解し、ミーティングで再確認しながら拘束のない日々の支援に取り組んでいる。行動抑制やスピーチロックも含めた拘束の具体例について会議で振り返りながら共有し拘束のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部及び内部研修を行い職員の周知を図っている。入浴時等に身体観察を行い注意を払っている。また職員同士で馴れ馴れしい言葉遣いになっていないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束・虐待防止の研修で勉強している。また権利擁護を利用されている利用者様がいるので、制度がどのようなものなのか触れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には職員が2人で赴き重要事項の説明等を行っている。介護保険報酬改定等の際には文書や家庭訪問により説明・理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事後に家族懇談会を行い要望・意見を頂いている。また利用者と家族の中に運営推進会議のメンバーがいる為、直接要望・意見を頂く事が、サービスの確保・向上に努めている。	夏祭りや敬老会などの行事の後に家族懇談会を開催し素直な感想意見が話されている。利用者の生活状況を毎月郵送でもお知らせし遠方家族とは話題のツールにしている。笑顔のある利用者の様子をみて驚き安心している家族もいる。近年、終末期の不安を寄せる家族もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度は福祉車両購入に際しどのようなものが良いか確認があり意見を述べた。社長との個人面談も継続して行なっている。	申し送りやミーティング、定例会議で職員の意見提言を聞き代表者会議で話合っている。処遇や予算を伴う案件は代表者に伝え、運営に反映させる他、研修時間の確保、ドライブ送迎リフト車両の導入に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の参加や資格取得に向けて積極的に取り組んでいる。各自やりがいを持って仕事をしているが、どうしても時間外になってしまう事が課題となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加したい外部研修のアンケートを取り、参加できるように配慮している。また内部研修は計画的に行っている。職員がより集まれるよう、申し送りノートにどのような内部研修が行われるか事前に伝えている。研修時間は時間外手当が支給されるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の交換研修では、他の施設の職員との交流を図るとともに、良いものを真似できないか学んでいる。また町の連絡会議、社会福祉協議会主催の情報交換会等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や申し込みがあった場合は、本人の健康状態や生活上の問題となる事、要望をアセスメントしている。また見学・体験に来ていただき、相談しながら要望や不安を理解するような関係作りをしている。本人が言った事を細かく記録するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の家族にも見学に来ていただき、家族の介護上の困難な事や思いに耳を傾けアセスメントしている。お試しを利用して、どんな所であるか実際にみてもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況をよく聴き、また本人及び家族の要望を踏まえ、必要としているサービスが利用できるようにしている。また利用者様自身ができそうな事を探そうにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	小料理屋を営んでいた利用者様がいたので、味付けの確認をしてもらう事がある。一つひとつの場面で利用者様が選択できる様な声掛けを行い、やる気や本来のその人らしさに近づける様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に本人の生活の状況の報告書を送っている。また、連絡を密にし、面会の際は家族とゆっくりと話せるよう配慮し、職員も家族に日頃の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町民文化祭や地区の敬老会に参加し、兄弟や近所の方との関わりが途切れないように努めている。	馴染みの関係や範囲も狭くなるなか、出身地域の敬老会参加や町民文化祭見学、車で高原、花きセンターや懐かしい風景場所に出かけ、地区民や親戚との馴染みが途切れないように支援している。家族とともに墓参りや理髪店に出かけている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えを行い、全員の顔が見えるようにして大家族で食事をしているような環境を作った。また少人数で過ごせるようにも心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入所によるサービス利用終了がほとんどだが、必要に応じて連絡を取り相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中で、民謡が好きな利用者の為に歌を、花を生けるのが好きな方には花を持って来たりと本人の思い・希望・意向の把握に努めている。入浴や就寝前など気持ちがゆったりとしている時に話を聞いている。	利用者の経歴を参考に日々の関りの中で会話や表情から推察し把握している。BGMや切花の活用で本人は勿論、ホームが生き生きとした雰囲気になることもある。試行錯誤を重ねながら利用者の真の思いと意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から生活歴・経緯・出来る事・好きな事(物)等を聞き取り、把握するように努めている。また、日々の会話や関わり合いの中から情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わり合いやバイタルチェック等で個々の行動パターン・出来る事や心身の状態の把握に努め、ミーティングや朝夕の申し送り時に情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	過ごしやすくしてもらう為、好きな事・趣味を聞き取っている。本人だけでなく他の利用者を巻き込んでコミュニケーションを取れるように考えた。	居室担当者が中心になり利用者、家族の状況を確認、情報収集しミーティングで話し合いながら計画の作成、定期的なモニタリング、見直しを行なっている。計画の作成に当たっては、特に生活に楽しみ、張り合いを持てる趣味や日々の暮らし方に工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違った事や、工夫した事を記入し、職員間での情報交換も細目に行なっているので実践できそうな事は、即座に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活支援事業の利用、訪問診療の利用、床屋、クリーニングの訪問等、ニーズ発生時に随時対応を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ケア会議等を通し連絡調整し利用者にあった利用ができるよう支援している。また移動販売や移動図書館を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族にお願いしているが、受診の援助も行っている。現在、協力医の訪問診療を利用しており、体調の変化があった場合等相談に乗っていただいている。	かかりつけ医受診は原則家族対応としている。家族同行受診時は健康状況記録の持参で状況を共有しており、状態によっては職員の同行もある。協力医の訪問診療を利用している利用者も近年多くなってきている。日常は看護職員との連携の下で健康管理がなされ安心できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の様子を看護師に報告し、指示を仰いでいる。連携をとっている。看護師は利用者の状態観察に努め、適切な対応・指示が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には面会や家族から様子を伺い、必要があれば医療機関と情報交換を行っている。病状の経過・状態を把握し、利用再開時に混乱がないように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・本人に意思を確認している。要望に出来るだけ添えるよう、かかりつけ医・協力医と当事業所で話し合うようにしている。対応可能な機関へ移行出来るよう支援している。また家族の不安が少しでも和らぐ関わり方に努めている。	重度化や終末期の方針については入居時に意向を確認し状況に応じ、希望に添えるように努めている。医療行為の伴わない終末期や重度化の対応指針は作成済みである。看取りは医療、家族の協力体制のもと、職員の研修を重ねることにより希望に添えるようにしたいとしている。	利用者、家族の不安は重度化・終末期の対応に寄せられている。医療・福祉関係機関と連携をとり支援しているが利用者のADLの低下もあり緊急時の対応に備えて、職員の学びと医療や関係機関との話し合いを更に重ねながら体制が整備されるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で嘔吐した場合や転倒した場合等の初期対応を繰り返し行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会社として年2回利用者と共に避難訓練を行っている。また防災委員会を中心に西光荘独自の訓練も行っている。今年には実際に寝ている利用者を端的な声かけのみで移乗・避難を行っている。	消防署が立会い運営推進委員協力の下、隣接駒子の湯、併設小規模多機能と合同で年2回火災想定避難訓練を行っている。毎月GH独自でも夜間想定訓練を行っているが、職員体制の薄い夜間の避難体制に不安を抱えている。	複数の車椅子利用者があり、隣家とも距離がある。夜間災害の避難に特に困難が予想されることから地域住民の協力体制、迅速な連絡網手段について具体的フローチャートを作成し、想定訓練を重ねられることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時・入浴時に配慮するのは勿論の事だが、人生の先輩・年上である事を意識し、命令口調や大声にならないように努めている。	人生の先輩として尊敬の念をもち親しみのある言葉かけ、礼儀正しい態度を心がけて対応している。利用者の行動を見極めた手助け、居室入室時の挨拶、排せつ、入浴時の羞恥心への配慮に気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な時に『〇〇が食べたい』、『外に行きたい』と話す事があるので、即時対応は難しいが出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の時間の流れはあるが、出来るだけ、本人のペースで行えるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者によっては、口紅やヘアークリーム等の化粧をされる方がいるので、調子が悪い時は手伝う。着る服は一緒に選ぶ。好みを聞き入れ購入したり、家族から持って来て頂いたり、家族が夏物・冬物の入れ替えや購入も協力して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	若い男性職員が食事作りの際、台所付近から離れないでずっと見ている方もいる。味見をお願いしている。干し柿作りやワラビ・フキノトウの下ごしらえをして頂き。食事やおやつに出すと「美味しい」と笑顔で食べている。	食事づくりは職員の当番制で献立は利用者の好みを聴きながら職員が作成し、味見、配膳と利用者の自主的な手伝いも得て共に準備している。山菜や野菜、果物の差し入れは献立に花を添えて調理意欲や食欲増進の糧となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や好みに応じ、苦手なものは手を加えて食べやすく形を変えたり、とろみをつけている。また、個々の状態に応じた食事量を提供し、食事量・水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に伝わらない時は、職員が歯磨きしているところをみてもいい、言葉以外でも伝えるようにしている。口腔ケアの研修にも参加し、口腔ケアの重要性を職員に認識してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の力・排泄パターンに合わせて排泄用品を使い分けている。チェック表・排泄パターン・しぐさにより声掛け・トイレ誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄を促している。	リハビリパンツ利用者が多い。排泄チェック表を参考に運動もかねて出来るだけトイレで排泄できるように支援している。夜間含めた排泄自立利用者は1名。ポータブルトイレの利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・ヨーグルト・牛乳・水分を意識的に摂取するようにしている。足踏みをしてお腹に刺激がいく様な体操をしたり、トイレで腹部マッサージもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は天然温泉であり、入浴時間は午前となっている。併設の事業所で入浴するなど、個々の状態に応じた入浴を行っている。また、利用者の要望や体調により午後に入る事もある。	浴槽は個浴で天然温泉、ゆったりと好んで入浴しているが体調や気分配慮しながら週2~3回の入浴としている。車いす利用者は併設の事業所を利用している。時には併設の広い風呂場で湯気気分を口ずさみながら楽しんで入浴している利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の居室で寝るのとは別に、ソファや畳で昼寝をする方もいる。眠れないような時は、温かい飲み物を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を理解し、症状の変化を確認し、訪問診療時に相談する事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	見守りながらテーブル拭きや食器拭きを利用者様のできる事を行ってもらう。ドライブ等を企画し、参加してもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の周辺を散歩し、花を摘んだり、日光浴を兼ねて外で体操を行ったりしている。職員の同行で地区の敬老会へも参加した。また、面会時に家族と共に外出する場合もある。また季節を感じてもらおうと花きセンターに行く事もある。	天候や体調に配慮しながら施設周辺の広大な草原周辺を散策しながら日光浴・外気浴で気分転換をしている。時には車で紅葉狩りや花きセンター見学、産直での買い物を楽しめるように支援している。家族と外食、墓参に出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な利用者はお金を所持している。併設の温泉の売店や移動販売で買い物をしている。職員が付き添い支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話ができるよう支援している。また、寂しそうな時等こちらから御家族に電話でお願いすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕飾り・クリスマス・正月・水木団子等季節感が感じられるよう飾り付けている。また行事の写真や書初めなど楽しみを思い起せるように展示もしている。季節の花や木の実は飾っている。利用者様が良く聞いていた音楽等を流して、昔を思い出してもらえるようにしている。	天窓からほど良い自然光の降り注ぐリビングの要所所にソファや椅子、ベンチが置かれ、利用者は夫々好みの場所で寛いでいる。広い廊下のところどころに行事の写真や小学生からの手紙、季節の花が飾られている。掃除は曜日ごとに重点的丁寧掃除の場所を定めている。3か所ある洗面、トイレも機能的、衛生的で使い心地がよい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で思い思いに過ごせるようにソファの位置や食事の席を工夫している。テレビの前や廊下に畳スペース玄関前にはベンチがあり、それぞれが好きなように過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持ち込み、家族の写真を貼ったりなど、本人の居心地の良ように配慮している。仏壇を持ってきている利用者もいる。また家族からの要望で置いて欲しい物を持って来て頂いている。	清潔を旨としベッド、ミニタンスを中心に一人ひとり好みや状況に対応した配置をしている。ソファや畳の小上がり風腰掛を工夫して配置し家族の面会時にゆったり過ごせるように配慮している。家族の写真、ゲームの賞状、手芸作品と利用者の個性がにじみ出た室内環境に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーであり、手摺りが設置されている。居室やトイレには必要があれば名前や目印をつけ見当識への配慮をしている。常に付き添うのではなく必要な時に介助できるように心掛けている。		